

「朗読花みずき」の閉会について



【無念の幕引き】

代表 津村 盈児

「朗読 花みずき」は、平成 29 年 3 月をもって 24 年間のクラブ活動に幕を引くことになった。その主たる理由は、会員の激減と高齢化である。

活動のスタートは、平成 5 年 10 月、朗読勉強会「花みずき」として内野幸子さんが有志数人と立ち上げられたと聞いている。それまで「ミス・ブール記念ホーム」へ個人として朗読奉仕をしておられた内野さんが朗読スキルの向上と、奉仕先の拡大を目指して「老人大学同窓会高槻」のクラブ活動の一環として勉強会をはじめられたのである。

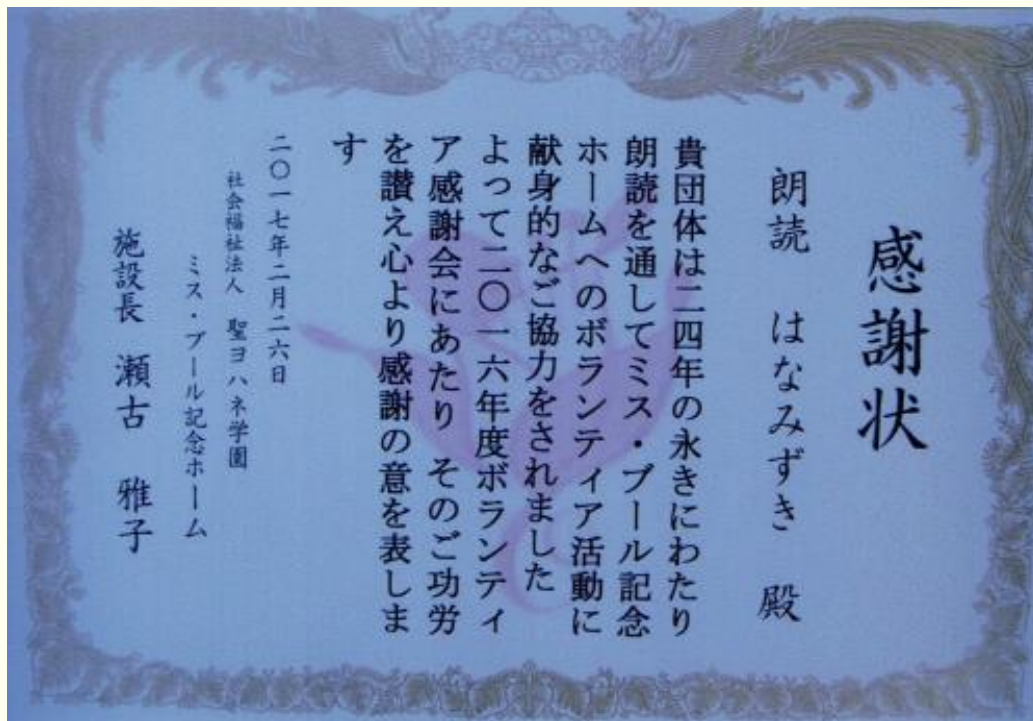
また「花みずき」という会の名称も内野さんの発案だという。

その後、徐々に会員も増え、老人ホームの奉仕先も前記の「ミス・ブール」以外に平成 10 年には「槻の木荘」、平成 11 年「高槻荘」、平成 14 年「高槻ともしび苑」と約 9 年をかけて合計 4 か所に増加、勉強会も今城塚公民館での月 2 回が定着した。

会員も 20 人近くまで拡大し、朗読の発表会も老人ホームのみならず、市内の各公民館や交流センター、生涯学習センター等一般市民にたいする発表会にまで発展していった。

しかし平成 20 年ころから高齢化による会員の退会が出始め、会員数の減少がはじまる。その補充として毎年 4 月の高大修了者に対する「入会説明会」や、果ては高大修了者に拘らない新入会者を募ったが、退会者を補充するまでには遠く及ばず、ついに平成 28 年度は会員数が 5 名となった。残った会員は 90 歳台と 80 歳台の男性が各 1 名ずつ、70 歳台の女性が 3 名という有様。それでもこの 5 人で 28 年度をなんとか乗り切ったが、これ以上は気力的、体力的に継続は困難と判断、無念の閉会を決断したのである。

今後はこの残った 3 名の女性会員が、個人として朗読奉仕を続けるという意向なのが、唯一の救いだといえる。ながい間おりにふれご支援、ご声援いただいた会員諸氏にお礼を申し上げて閉会の辞とする次第です。



ミス・ブールより感謝



平成 21 年 11 月 23 日
真上公民館での発表会